

日本、アジアの素晴らしさに伝えるリーダーを目指す

東京藝術大学学長 宮田亮平氏



国立で唯一の総合芸術大学として人材を育成

本誌 東京藝術大学の前身は明治二〇年、一八八七年に東京・上野に開校した東京音楽学校と東京美術学校なのです。

宮田 明治政府は日本が西欧列強に伍していくためには産業とともに芸術教育が重要だと旧文部省に一八七九年に音楽取調掛、一八八五年に図画取調掛を設置しました。これが一八八七年一〇月に東京音楽学校、東京美術学校と改称され、本学の前

身が誕生しました。そして、一九四九年の国立学校設置法により、この二つの学校を包括して東京藝術大学として発足しました。現在、美術学部、七学科、音楽学部、七学科の合計二学部一四学科と大学院に美術研究科、音楽研究科、映像研究科の三研究科を有する我が国唯一の国立総合芸術大学となっていますが、この間一二〇年以上にわたり、世界的な芸術家を輩出してきました。こうした伝統や遺産を継承しつつ、優れた芸術家・研究者・教育者の養成を行っています。

本誌 上野以外にもキャンパスがあるのですか。

宮田 本学の大部分の学科は東京都台東区の上野公園に集中していますが、そのほか茨城県取手市、神奈川県横浜市、東京都足立区千住にもキャンパスがあります。取手キャンパスでは美術学部一年生と先端芸術表現科、横浜キャンパスでは大学院映像研究科、二〇〇六年にオープンした千住キャンパスでは音楽学部音楽環境創造科と大学院音楽研究科音楽文化学専攻が教育研究活動を行っています。

二〇〇七年に創立一二〇周年記念事業を実施

本誌 二〇〇七年に創立一二〇周年記念事業を行いましたね。

宮田 東京音楽学校、東京美術学校の開校以来、本学は芸術の専門教育、研究機関として数多くの卒業生、研究生を通じてわが国芸術界の発展に大きな役割を果たしてきました。この二二〇年という歴史を振り返り、芸術の拠点としての本学の使命を改めて確認するとともに新たなアイデンティティの確立などを狙いとして、二〇〇七年四月から一年間かけて展

伝統を継承、 しさを世界

観覧会、演奏会、映画制作、地域連携シンポジウム、施設整備連携組織事業の七事業を柱に「創立二二〇周年記念式典」をはじめ六〇以上の記念事業を実施し、成功裏に終えることができました。ただ、この記念事業が一過性のお祭りではなく、日本や世界の芸術教育の中で一つの指針として将来に繋がればと思っています。

本誌 記念事業では日中韓一大大学による芸術宣言を発表、東アジアから世界に向けて芸術文化を発信するという試みも行いましたが。

宮田 日本は西洋の近代技術を受

け入れ、それを新たな製品として世界に輸出してきましたが、芸術も同じだと思います。日本人は物事を受け入れ醸造したうえで伝えていくことに長けています。新鮮な刺身に醸造した醤油をつけると、その味が倍増するように芸術の分野でも日本人の持っている感性や技術などを融合し、世界に発信できるものをつくり出していかなければなりません。現在、世界をリードしている日本のTVアニメもデイズニーなどから影響を受けたものですが、今ではその米国向け輸出金額は鉄鋼を超えるほどです。本学も創立以来の伝統で培われたものと世界の芸術文化を融合、発展させ、日本、アジアの素晴らしさを世界に伝えるリーダーの役目を果たさなくてはならないと考えています。

大学院にアニメーション専攻を設置

本誌 昨年、横浜キャンパスの大学院映像研究科にアニメーション専攻を開設しましたね。

宮田 映像研究科は学部を持たない独立大学院で、二〇〇五年に開設された映画専攻に始まり、メディア映像専攻、博士後期課程（映像メデ

ィア学）に続き、二〇〇八年にアニメーション専攻を設置しました。なぜ本学でアニメーションなのかという意見もありましたが、日本のアニメーションや漫画が世界中に受け入れられている現在、これを学術的に評価していくことは時代の要請で、私立大学にはアニメーション学科も設置されています。また、本学は指導者の養成も重視していますから作品の制作とともに新しい事業などを生み出し、プロデュースできる人材の育成も図っています。

本誌 電通との産学連携協定や台東区との共同プロジェクトなど社会、地域との連携に力を入れています。

宮田 本学の最大の役割は社会との連携にあると思います。芸術というのは難しく理解できないと思っている人が多いかも知れませんが、芸術は身近なものです。喜びや美しさを感じる人すべてが芸術家で、それを分かり易く伝える人が生業にしているだけです。誰でも子どもの頃はお絵かきや歌が好きだったはずで、芸術を通してその頃のとくめく心を呼び起こしたいと思っています。「とくめく」をもたらず契機をつくるのも芸術家の大事な仕事です。また、

さまざまな製品のデザインや設計など企業にとっても本学の知恵や知識はますます必要になっています。ただ、待っているだけでは芸術を伝えることはできません。今後さらに広い視野と国際感覚を身につけ、自分から発信し、社会に還元できる芸術家や研究者、教育者の養成に邁進していきます。

宮田亮平（みやた・りょうへい）氏
1945年、新潟県生まれ。1972年、東京藝術大学大学院美術研究科鍛金専攻修了。1990年、東京藝術大学美術学部助教授。同年、文部省在外研究員としてドイツに派遣され、ミューゼウム・フイアー・クンスト・ゲベルベ／ハンブルグで研修。1997年、東京藝術大学美術学部教授。2001年、美術学部長。2004年、副学長・理事。2005年、東京藝術大学学長に就任。イルカをモチーフとした「シュプリングン」シリーズ等で日本現代工芸美術展大賞・日展特選・文部大臣賞・内閣総理大臣賞などを受賞。